

看護部

1. スタッフ (2024年4月1日現在)

看護職員	854名
(臨時15名、パート14名、嘱託3名含む)	
看護補助員	ヘルパー21名
	アシスタント21名
公認心理師	2名

2. 看護部理念

「このセンターに来て良かった」と実感してもらえる看護を実践します。

3. 基本方針

- 患者の皆様一人ひとりを尊重し、安全で質の高い看護を実践します。
- 主体性を持って医療チームにおける役割を果たします。
- 自己啓発に努め、看護の質の向上を目指します。

4. 看護部目標

【中期目標（2020年度～2024年度）】

現任教育を充実させ、看護職員の実践力の向上と自立を図り、患者のニーズを充足する。

【2024年度目標】

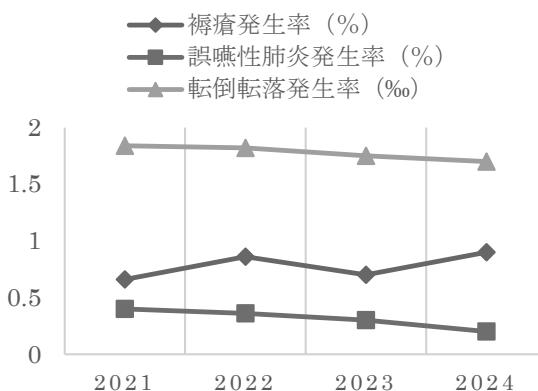
倫理的態度に基づく看護実践を強化する。

5. 看護部目標評価

看護倫理関連の学習課題と段階的に学びを得る4つの看護倫理研修を全部署が活用し、看護職の態度・行動を倫理的視点で考える思考力を得ることができた。さらに患者の確認、6Rの確認、個人情報保護、身体拘束、意思決定支援について、学習した倫理的視点を活かした実践を各部署で言語化したこと、看護職として倫理的に適切な態度・行動を共通認識できた。これらの学びをもとに先取看護及びカンファレンス・終礼における倫理的な検討や互いの承認の習慣化を図るとともに、看護職員全員が3か月ごとに倫理的行動自己評価尺度を評価し、自分で決めた1項目の強化に取り組んだ。その結果、倫理的行動自己評価尺度の平均値が全項目で良値に変化し、87.8%が「倫理的行動が強化できた」と回答した。患者ご意見箱の好意的意見の割合も62.5%と前年度を9.5%上回った。感謝の言葉も多く、日頃の看護実践が評価され、患者を尊重した配慮のある看護ができた結果と考える。苦言については可能な範囲で各部署と看護の質向上委員会が患者視点での改善に取り組んだ。患者満足度調査結果も概ね上昇し、看護職員の倫理的に適切な

看護の理解や意識が向上し、実践につながってきていることが伺えた。一方で患者の安全を守る側面において倫理的に適切な行動を各自が選択していくことは課題である。看護倫理研修や定着化してきた各部署の倫理的視点での検討会を継続し、さらに倫理的に適切な看護を実践できる組織風土を醸成し、看護職員の資質と看護の質向上に継続して取り組んでいきたいと考える。

6. ナーシングインディケーター



自治さいたま看護管理指標 (JSNMI : Jichi Saitama Nursing Management Index) より

7. 会議・委員会活動

看護部の組織・運営に関する意思決定と目標達成に向けた活動を行うために会議・委員会を設置している。2024年度は電子カルテ更新に係る準備のため記録委員会に全部署参加を継続した。また、看護の質向上や業務改善は継続して取り組むべき課題であり、両委員会を特別委員会から常設の委員会に移行した。

1) 会議

- ・看護部執行部会議
- ・看護師長ブロック会
- ・看護師長会
- ・キャリア支援会議
- ・委員長会議

2) 委員会

- ・記録委員会
- ・安全管理委員会
- ・クリニカルラダー委員会
- ・看護研究委員会
- ・看護の質向上委員会
- ・業務改善委員会

8. リソースナース活動

看護の質の維持・向上のための組織横断的なリソースナースの活用を目的にリソースナース部門を設置した。

1) 認定看護師（12分野）

各分野で関連するチーム活動、施設基準に関連する活動を行った。

2) 特定行為看護師

特定行為看護師は26名と2名増え、特定行為実施件数は1176件（282件増）であった。組織横断的活動としては、RST・術後疼痛管理チーム活動に加えて、外科系パッケージ研修修了者による特定行為チーム（SMAT）が活動を開始した。

3) 診療看護師

診療看護師活動統括部から看護部リソースナース部門に異動し、看護師との連携が促進された。診療看護師3名は配属診療科で医師業務の一部を担い適時適切な診療提供に努めた。さらにRRSやPICC挿入において組織横断的に活動することで医師を中心とした業務負担軽減にも貢献した。

4) 公認心理師

公認心理師2名が患者とその家族の治療に伴う心理反応や精神症状のアセスメントとケアを行った。精神疾患の既往がある妊産婦に対しては子の養育についても意思決定支援、心理支援を行った。

9. 主な事業

1) 総務

- ・リソースナース部門を新設した。
- ・看護部体制強化看護師長、ER主任3名・HCU主任2名と各1名増となり、配置を開始した。
- ・即戦力となる人員を確保するため、臨時職員を採用し、適性を判断して正職員に任用替えをする体制を確立した。

2) 業務

- ・業務効率化を図るために各部署や委員会で取り組みを行った。始業前業務の申請から承認までの手順と各部署の業務マニュアルを見直し、始業前業務の削減に取り組んだ。
- ・電子カルテを更新（COSMOS2）した。その際に看護の質担保と記録業務の効率化を目的にチームコンパス、業務の効率化と精度向上を目的にNFCによるバイタル機器連携システムを導入した。あわせて勤務予定自動作成アプリ（セルヴィス）を導入した。

3) 人材確保

- ・今年度は対面のみの病院見学説明会を9回実施し356名参加、オープンホスピタルは80回実施し680名参加した。
- ・採用試験応募者は358名であった。

4) 教育

- ・看護倫理研修I～IVを企画し実行した。
- ・一般病棟、特定病床のリリーフまたは観察を行い、研修評価及び各部署へのフィードバックを行った。
- ・看護学生実習は新たに統合実習の受け入れを開始した。

5) 研究・学会等の活動

- ・看護研究・成果発表会を開催した。
- ・院外での活動に関しては表1を参照。

6) その他

- ・キャリア開発チアグループ活動においては、新卒者の入職が多数であったことからOJTの負担軽減のためグループ内異動を休止し、可能な範囲でのチアナース活動の強化に取り組んだ。2部署以上で業務ができる看護職員は32%と昨年度比で4%減少しした。
- ・病床有効利用のため、3階A（小児科）病棟に成人、4階B（産科）病棟に乳腺外科患者の受け入れを開始した。

表1 学会発表・執筆 ※出向者を含む

発表者	テーマ	学会名
坂田友紀	小児患者における末梢静脈注射投与前のヘパリン生食を用いた通水による血管外漏出早期発見の有効性	2024年埼玉県看護協会さいたま支部看護研究・成果発表会
末武友紀子	日本版 NursesWorkplaceScale (NWS) の開発と検証：看護師の被抑圧者集団の測定	第44回日本看護科学学会学術集会
阿久津充生	入院後に診断されたエムボックスの暴露後対応について	第39回日本環境感染学会総会・学術集会
千葉友紀	外来の安全カンファレンス定着への取り組み - 共に学び合える環境づくりを考える -	第19回医療の質・安全学会学術集会
亀森康子	医療安全ネイティブ世代のトリセツ	
大庭明子	転倒・転落防止活動を根付かせる～e-learningを用いた職員個々の意識啓発による医療安全文化の醸成～	
山岸八重乃	アプレピタント投与忘れ対策に関する活動報告	第52回日本集中治療医学会学術集会
筒井梓	患者の安全を守る RRS のサイクル：私たちの成功の鍵	
執筆者	表題	書籍・雑誌名
大庭明子	全職員に転倒・転落防止活動を意識させるための取り組み	患者安全推進ジャーナル別冊、転倒・転落のリスクマネジメント2チームで取り組む転棟・転落対策実践事例集
大庭明子	転倒・転落対策確立プロジェクトCBAで進める 患者・家族との対話による合意形成、コミュニケーション	月間ナーシング 2025年冬号